

『この道でおはよう さよなら ありがとう』

～平成29年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：100団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過されがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、改めて道路の役割・重要性について考えて頂くために、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。52回目を迎える本年は、全国各地から6,841作品もの応募がありました。

応募作品について、三好礼子氏（エッセイスト、元国際ライター）、やすみりえ氏（川柳作家、文化庁文化審議会委員）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の審査員による審査を行い、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が決定しました。

決定された優秀作品は、地方整備局や地方公共団体が

- ・地域住民等と協働した道路清掃、植樹帯の整備、不法占用物件の是正
- ・広報誌・マスコミを活用したPR活動
- ・パネル展示会や建設機械試乗会の開催

などといった道路の正しい利用や愛護活動を啓発する際のキャッチコピーとして使用^(※)させていただきます。

(※) ポスター・チラシへの掲示・・・横断幕・電光掲示板・タスキへの掲示 等

◆審査委員◆【総合選評】



三好礼子 委員

(三好委員) 沢山の応募ありがとうございます。全てを拝見するのは体力勝負でもあります。その作品群からいつも大きなパワーをいただきます（委員のみなさんも同じようです）。「道路」は、イコール「生きること」。その深いつながりの殆どが前向き、かつ未来や希望に繋がっていて、本当にワクワクします。そんな中で、今年は3つのカテゴリーを飛び越えた感性や手法が多かったように感じました。道は子供を大人の世界に、大人を懐かしい時代に連れていくくれるタイムマシンなのでしょう。私も小学一年生の頃、足元の通学路を眺めながら、哲学者のごとく未来を考えていました。道はオモシロイ！今回は点字ブロックやオリンピックを意識しての作品もあり、時代が垣間見える標語も目につきました。道路はいつも安心して、人々の笑顔が溢れる魅力的なパートナーであって欲しいものですが、選ばれた作品たちはきっとそのお手伝いをしてくれることでしょう。



やすみりえ 委員

(やすみ委員) 今年度は、標語に込めた思いの大きさを感じる作品が多かったように見受けられます。他人への気遣いや配慮をテーマにしたものもたくさんあり、時代の一片を見るようでもありました。それぞれの部門の大賞には、場面がイメージしやすく親しみやすい作品が選ばれたのではないのでしょうか。これらの標語が活用され、多くの人の心に響くことを願っています。



吉岡耀子 委員

(吉岡委員) 毎年8月に定められた「道路ふれあい月間」では、全国でイベントが開かれ、今回のように選ばれた道路標語が会場でも道路でも活躍しているようです。そこで今年も、夏の暑さに負けない元気で、見て聞いてすっくと入っていく調子の作品を、と選別させていただきました。小学生も中学生も一般も、それぞれの年代に応じた生活と感性を作品にまとめ、改めて道路と人々のつながりを実感します。応募者の皆様、多くのエネルギーを有難うございました。

◆平成29年度の入選者・作品◆ ※発表内容は応募時点

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「きれいでしょ わたしの町の 通学路」

福田勤太さん（北海道 森町立尾白内小学校）

(三好委員) 可愛い少女に笑顔でそんな風に言われたら、もう必死でゴミを拾って、道路直して、街路樹もお花も育てたくくなります。きっとご本人もゴミを拾ってしまう質なのでは？ ストレートなのにインパクト大。ありそうでなかった言い回しにイチコロでした。「わたしの町」は大人っぽいのに、「でしょ」が愛らしさを醸し出しており、バランスがよく、とてもリズム感のある作品です。その道を一緒に歩いてみたいくなりました。
(やすみ委員) 毎年、かわいらしく素直に作られた標語が多いですね。その中でも、話しかけてくれているような雰囲気のある作品はともシンプルでありながらも印象に残りやすいのではと感じます。「きれいでしょ」と自慢したくなるような通学路があるって素敵な環境ですね。
(吉岡委員) きれいでしょ、と無邪気に問いかける声が聞こえるようです。花咲く道、ゴミひとつない道をランドセルが並んで歩く情景。きれいな作品です。子供にとっての一番親しい「道」はきっと通学路なのでしょう。優秀賞の2作品からも、地域の中で満ち足りて成長する姿が浮かびます。

【中学生の部】「たくさんの 夢を抱いて 歩く道」

淡澤花奈さん（東京都 江東区立第二亀戸中学校）

(三好委員) 中学生になると、みなさん言葉に重みが増えます。未来への希望と不安、現実と夢のギャップ。それが人生の味たる部分ではあるのですが、「考える葦」の中から気持ちよく伸びた一本、でしたね。「たくさんの夢」としたところで、主導権は手中にあり、不安よりも希望が大きく感じられます。思い返せばスポーツ選手や動物関係や旅人になりたかった10代の私は、夢はあるものの、不安にも押し潰されそうでした。この作品と出会ってからは、もうちょっと肩の力抜いて駆け抜けられたかも。潰めば潰めほど味が出てくる深い作品だと思います。
(やすみ委員) 道路を、人生の道筋としてもイメージできるような表現をもちいて、さらに標語としての形も損なわずに完成されていると思います。夢いっぱい中学生生活を送っている等身大の様子も見えてきますね。
(吉岡委員) 中学生になると世界が広がり、夢が次々に湧いて・・・。作者は歩きながらそれらを確かめているのでしょうか。心も体も前に前に進み、周りの空気も深刻としてきます。優秀賞2作品含めてフレッシュで頼もしく、道路も夢を応援してくれているよう。

【一般の部】「この道で おはよう さよなら ありがとう」

大澤佳子さん（千葉県 浦安市）

(三好委員) 大好きです。「人生は素晴らしい」と副題がついていますよね。たった一本の道なれど、どの道でもそこには人々のドラマが繰り広げられています。人は一人では生きていけないのは分かっている、人生はいろいろタイヘン。でも、ハッピーエンドで終わるための大事な要素が笑顔の挨拶なんですよ。三種の神器であるこの3つのキーワードが丸ごと入っている、なんとも賢い作品。美しく、温かく、愛情たっぷり、完璧です。横断歩道橋に大きくこれが掲げられていたら、誰もが優しい気持ちになりますね。
(やすみ委員) 挨拶の言葉をテンポよく並べた、楽しい標語だと思います。日常の身近な言葉から、日々、街の人が行きかう道の風景も感じられました。道から生まれるコミュニケーションに期待したくなりますね。
(吉岡委員) 日常を支える道、人が行き交う道。活気あふれる道の姿がリズムよくまとめられ、口ずさみやすい標語が誕生しました。道とコミュニティが一体となって印象づけられています。優秀賞2作品からも、日常のぬくもりが伝わってくるようです。

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった

「この道で おはよう さよなら ありがとう」を今年度の代表標語とします。

優秀賞（6作品）

【小学生の部】「登下校 まいにちあるいて こんにちは」

美坂謙昇さん（鹿児島県 鹿屋市立寿北小学校）

「朝の道 耳をすませば 鳥の声」

小林姫々さん（北海道 函館市立神山小学校）

【中学生の部】「踏みしめる 道の先には 夢がある」

田野智子さん（兵庫県 伊丹市立西中学校）

「あいさつが 飛びかうこの道 グローバル」

矢野大樹さん（東京都 江東区立第二亀戸中学校）

【一般の部】「変わらない いつもの道の 温かさ」

佐々木美知子さん（埼玉県 所沢市）

「いい道が きっといい明日 連れてくる」

會田誠一さん（神奈川県 大和市）